

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回弘前市社会教育委員会議
開 催 年 月 日	令和5年8月4日（金）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時から午前12時まで
開 催 場 所	弘前市立図書館 2階 会議室
議 長 等 の 氏 名	委員長 生島 美和
出 席 者	生島 美和 委員長・佐藤 義光 副委員長 三上 文章 委員 ・古川 和生 委員・川越 俊昭 委員 成田 むつ子 委員・鈴木 純子 委員・白藤 隆士 委員 中田 早樹子 委員
欠 席 者	越村 康英 委員
事 務 局 職 員 の 名 氏	生涯学習課長 原 直美 中央公民館長 中川 元伸 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭 文化財課長 石岡 博之 生涯学習課長補佐 山崎 宏 図書館・郷土文学館運営推進室長 山田 俊一 生涯学習課企画係長 竹原 正澄 生涯学習課主査 金原 崇志 生涯学習課主事 田地野 智和
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員紹介</li> <li>・委員長・副委員長の選出 (令和5年8月1日～令和6年7月31日)</li> <li>・施設見学(弘前市立図書館・郷土文学館)</li> <li>・図書館・郷土文学館の利用促進に係る意見聴取について</li> <li>・社会教育関係団体への補助金の交付について</li> <li>・ひろさき教育創生市民会議委員の任期満了に伴う次期委員の選任について</li> </ul>
会 議 結 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「会議の議題」にもとづき説明し、各委員からの質問や意見を伺った。</li> </ul>

<p>会議資料の名称</p>	<p>・会議次第 ・社会教育関係団体への補助金の交付について（一式）</p>
<p>会議内容  ( 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 )</p>	<p>○新委員紹介 ○委員長・副委員長選出 生島委員を委員長として承認 佐藤委員を副委員長として承認</p> <p>令和5年度第1回弘前市社会教育委員会議開会</p> <p>委員長挨拶</p> <p>出席確認 欠席者の報告。越村委員が欠席。 弘前市社会教育委員の会議運営規則第2条第3項により、委員長は会議を主宰するので議長を生島委員長とする。</p> <p>次第3 定足数の確認</p> <p>次第4 会議録の署名委員の指名 今回の署名委員は成田委員と白藤委員に依頼</p> <p>次第5 施設見学 事務局より説明。 (生涯学習課長) 今回の施設見学の内容について 1) 郷土文学館、図書館調査室を見学する。 2) 所有資料のデジタル公開『奥ゆかしき津軽の古典籍』の説明</p> <p>見学は施設の利用促進について委員からのご意見を頂く為のもの。</p> <p>(生島委員長) 他の関連機関もある訳だが社会教育委員の視点で利活用を議論するという事になるので、ぜひその視点を持ってご見学いただきたい。</p> <p>施設見学 説明者 郷土文学館企画研究専門員 櫛引 図書館・郷土文学館運営推進室 竹内</p>

(生涯学習課長)

施設見学後『奥ゆかしき津軽の古典籍』について説明

(生島委員長)

郷土文学館と図書館の調査室を見学いたしました。これを基にしながらこれらに関する利用促進を皆様から様々な視点でご意見を頂きたいという事でございます。あとは質問でもいいです。いかがでしょうか。

先に私が気づいたこと、感じた事です。郷土文学館に行くところの本を読んでみたいとかこの作品を見てみたいと思うのですが退館すると忘れてしまうことがある。せっかく図書館が隣にあるという事は一つのメリットだと思うのですが図書館と郷土文学館との連動性とか読ませていく仕掛けは今ほどのように作られているのか実態を教えてください。

(生涯学習課長)

図書館の所蔵している本についてはインターネットで目録を見ることが可能。郷土作家、例えば 太宰治の作家の部分については図書館1階の書棚でもわかりやすく展示しているが、特に連携作業というのはいです。

(推進室)

例えば今年から先ほどご覧いただいた陸羯南の漫画とか郷土文学館で展示をする時に図書館でもミニ展示みたいなものをロビーにして、郷土文学館でこういう事をしていきますというように誘導するようにはしていて、郷土文学館を見て頂けたら逆に図書館の方といった風に連携していけたらと思っているところ。

(生島委員長)

この辺では有名な地域に根ざした図書館という形で岩手県紫波町の図書館がありますが、そこでは隣にある産直と連携して図書館の活動をしています。その時にどんな連携をしているかという産直にレシピ本の紹介をしています。例えば丸ごと1個のキャベツを使い切るレシピ集の切り抜きを産直に貼って、このレシピ集が図書館にありますと書いてあって、図書館の入り口でその本を展示して、そこから本を持って行って借りていいですよというような形で利用促進をしています。図書館で飾るだけじゃなくてそこから借りてくださいというような郷土文学館と連動したコーナーみたいながあると、見るだけじゃなくて読まれる作品になるのではないかと私は感じました。こちらの大学

に勤めていた時に文学部なのに地元作家の作品を全然読んでいない学生がいました。『青い山脈』すら知らない。そのような人たちに読んで面白い、その導入になるような郷土文学館であると思いますので、図書館と是非棚と繋がる郷土文学館があるといいのかなと思いました。作家にも関心が向くので郷土文学館にも足が向くのかと思いました。いろんな観点で皆様からお声を出して頂けたらと思います。佐藤委員お願いいたします。

(佐藤委員)

私もいろいろ考えていました。実は私も三十数年弘前に住んでいますけれども図書館を月に数回利用しています。一つ感じるのは郷土文学館の入口がなんとなく閉鎖的な雰囲気。図書館に入ると自由な感覚なのですが図書館に入る前の入り口、自動ドアの前の段階で何か誘導するとか。中に入って見るべき場所だと思いました。光の関係で劣化を防ぐためのブラインドなのかもしれませんが、あの辺が見られるとか。例えば飲食が出来るとか、足を踏み入れてみたいと思うような仕掛けを作ってもらえればなと思いました。

(鈴木委員)

広報で見た催し物があり、図書館までは来たが入り口がわからず、職員に聞こうとカウンターに行ったが誰も居なくて声を掛けたら奥から出てきて『どうぞお2階へ』って案内してもらった。入り口は何か工夫が欲しいです。あと2階でコンサートやお話し会をするのですが来場者の年齢層が高いです。宣伝の仕方なのかやり方なのか専門家じゃないからわからないけどもう少し工夫があったらいいのかと思いました。

(生島委員長)

是非入り口をわかりやすくというご意見でした。他にはいかがでしょうか。

(中田委員)

郷土文学館は子どもたちを連れてきたり図書館も子供が小さい頃に子どものコーナーもあるので靴を脱いで紙芝居を読んだりとか調べ物をするのもパソコンを使わず図書館で本とか資料を見つけてみようねと言ったり、弘前の歴史も揃っていると子どもには教えていました。今はパソコンが当たり前で学校ではデジタル化ですが、素晴らしい資料が揃っている弘前ならではの文学だったり歴史に触れる機会を子どもたちに提供するのはいいい事だなと思いました。今はねふたの期間でこの町会でも子どもが少ないと感じました。みんな青森から首都圏に行

ってしまう、戻ってこないという政治的な観点だけでなく弘前には全国に誇れる素晴らしい歴史がある、資料が揃っているのだという事や弘前に生まれて弘前で育つことというのが誇りである事だと小さいうちから教えていくのが凄く大事な事だと思います。社会教育、地域や学校で活用できるものがたくさんあるのに利活用しきれてないと感じたので、私のできる範囲で例えば子ども食堂とか地域の町会活動とかで弘前の歴史の素晴らしさとか自分達がここで生まれ育つことの誇りを持たせるような社会教育をしていけたらと感じました。お力を借りることがたくさんあると思いますのでよろしくお願いいたします。

(三上委員)

日頃学校に居ますと子ども達が今非常に忙しいなと感じています。全然生活に余裕がない。授業が終わって塾や習い事に行き、スポーツ少年団活動、部活動を通して。本をめくる、文字を読むという事自体が学校の国語の時間や読書とか少しか。学校でも活字離れをしないように読み聞かせをしたり、工夫もしていますが、少し物足りないなと。これだとなかなか将来的に生涯学習的にもせつかくのいい郷土の文学等々に触れる機会が無くなっていくのは然りかなと思う所はあります。そういう意味では学校の中で可能な限り総合的な学習とか社会見学と称して子どもたちの遠足的なものを活用しながら、あるいは学校行事として様々な形でこういうものに数多く触れていくという事を考えたいなと感じます。日々の生活で後回しになっちゃうところもあるような気がしてなりません。そういう意味では校長達も含めて、学校の職員も何かの機会を利用してどんどん自分の目で見えて良さを感じて学校に帰ると活用できるのではないかというものが様々なところで考えられるのではないかなと感じました。そういう意味ではどうぞおいでくださいという郷土文学館の立場も大事でしょうけれど、もしかしたら半ば強制的にここの学校は何月何日にどうですかという風に開館していますからバスを出しますみたいな事も、予算的な事もあるでしょうけれどあってもいいのかなと感じました。もう少し私達も工夫していきたいと思った所です。

(生島委員長)

子どもさんたちの活動にという事で、ぜひ学校の先生にも来ていただきたいなという風にも思っています。

(古川委員)

今朝会議に来るのにかなり早い時間に来まして、入ろうとしたら観覧料100円と書いていて、この料金の100円って何なのだろうと考

えて、これがもし地元の作家を紹介したいとか、今はこんなに観光客の方がいる中でもっとそれを取り組みたいのであれば、たとえ私達の税金が高くなってでも無料にしてもいいのかなど。いったいこの目的は何なのか、そしてどう取り組みたいのかというのをはっきりしていけば入りやすいかなと思いました。きっと1回行くとまた行くかなと自分でも思いますし、敷居を少し下げしてみる。実際100円は取らないとダメなのですよね。

(生涯学習課長)

市内の小・中学生は無料になっています。大人の方は100円です。65歳以上の方は無料になっていて障がい者の方も無料です。

(古川委員)

または観光客の皆様に弘前城とかに来た方にガイドとか、色々なものとセットにするなどしてお得感を出してみるとか、とにかく観光客の方を呼び寄せる方法を考えていけたらなと思いました。以上です。

(生島委員長)

今回のご意見、100円を取らないといけないのかと。100円でハードルがあるというのも有りますけど、場合によってはお客様から100円をもらわないでスポンサーをつけるというのも。レンガ倉庫美術館でやっていますよね。青南商事さんが大学生に入ってもらいたいから青南商事プレゼンツで大学生は入館無料、その分の入館料を青南商事さんが負担してくださるというようにしてスポンサー制度をやったりしていました。案外そういう風にして地元企業さんを巻き込むというのも市としてあり得るのではないかと、書籍関連の企業さんとか、やってくださるといいなというのも今お聞きしながら感じていた所です。他にはいかがでしょうか。

施設に来て頂くというような観点もあるのですが、博物館もそうですが特に若い人や地元の方々がなかなか施設に足が向かないというのがあると思います。認知されているかということもあると思いますけど。その一環として社会教育で考えると公民館講座もやっているの、学校の遠足で来るみたいに講座で来るとかも考えられますから。文学に興味を持つとか歴史に興味を持つとか、ただ歴史に興味を持つのではなくて中身に興味を持ってもらうきっかけになる講座を公民館でやっていくという連携もあっていいかと思いました。例えば子ども演劇をやっていますよね。そういうところで弘前の郷土の文学作品を題材にして演劇にしたりして、その作った人の思いはどんなものだろうと作家の事を知りに行くようなきっかけにもなるかと思えます。先日中南

の社会教育連絡協議会の役員会で会長が高木恭造の詩を読んでもうございました。私はオンラインで参加していたのですが徐々に津軽の訛りを聞いて涙が出る思いで、音がいいなと思いました。文学館に行って読ませる、字が凄く多くなるのですけれど今若い人達はオーディブルで本を聞いたりすることがあるので、もっと五感を使いながら聞くとか話す、声に出すという事を意識して講座を作ったりというのもあり得ると思います。高木恭造の詩を読む講座とか皆で声に出してみようとか。高齢者も新聞を声に出して読むなどしていますので、高齢者や若い人も訛りを誇りに思って声に出していく楽しみ方も講座で出来ればいいのかと思っていた所です。

(佐藤委員)

昨日11時まで郷土文学館のホームページを見ました。4つほどあります。まず常設です。私も高齢者ですが陸羯南とか高木恭造のまるめろとか太宰。この辺は若い人でも興味を持つところかなと思います。陸羯南のゆかりの地図があって、ここで生まれたよ、あるいは岩木山が見えて小学生がそこで自分の夢とかを語る大和沢小の地図や関係する案内。ここに来れば陸羯南のすべてがわかる。あるいは方言詩人の高木恭造は音声で聞けるコーナーがあるのは嬉しく思いました。太宰治は3年だけだからこそ、ここ来ると学びの家もすぐそこだよ。私も行ってみましたがここで青春時代を過ごしたのかなと感じました。弘前に来ると県内の全てがわかるみたいな案内もあってもいいのかなと思いました。

第2点は現代の弘前市出身の方の文学とか、例えば弘前から藤野道格(ふじのみちまさ)さんホンダジェットを完成させた凄い人がいます。この方に関する本を読みたいと思ったら弘前図書館にないのです。他の所、結果的に青森市民図書館から借り受けました。例えば小さなコーナーでいいので今現在活躍されている方、5, 60代で成功を収めている方に関する本とかはあってもいいのかなと思いました。

3つめは歴史の場所を廻る、市民の方からお金を頂いて昼ご飯食べてと廻るバスがありますよね。これの社会教育の郷土文学館とか図書館、博物館とかを廻るのを広報で募集してもいいのではないかなと思いました。

4つ目は委員長と重なりましたが文章の手ほどき講座。読み取る力とか表現する力、発表する力とかを養う講座。小・中学生を対象にしてもいいでしょうし。あるいは新聞の投書欄などに出したい大人の表現力をアップさせる講座とか。そういう企画をしてみるのもいいのかなと思いました。以上です。

(白藤委員)

まず初めに今日市立図書館に入りまして一番びっくりしたのが郷土文学館でした。こんなところにこんなものがあつたのだと認識しました。興味があるないは当然あるでしょうけれど、やはり大事な事はもっと知らせめるといふか導くとかあるいは図書館に入った時にこういうのがここにあるんだみたいな導き方といいますかそういった所ももう少し発表があつてもいいのかなという気がしました。我々自身も今後他施設なりを勉強する機会があつてもいいのかなと。ただ話だけじゃなくて実際に目で見て肌で感じる事があつたほうが、ないよりあつたほうがいいのかなと今日のこの会議に参加しまして感じています。

(川越委員)

私は石坂洋次郎さんに若干興味があり5,6年前に石坂洋次郎展示室を見たのですが5,6年前と一緒なんですね。まだ1回も見てない方もいるのですよね。だから何年経つても来ないのはもったいないと思うのです。あまり興味のない方が多いのでしょうか学校で行事として郷土文学館を1回見ましようとか、行事に取り込むとかしない子どもたちはなかなか自分から進んで郷土文学館に足を運ばないと思うのですね。周りの大人の方が弘前にはこんなに立派な方がいるのだと子どもたちを連れてくるとか場所を提供するとかそういう事が必要なのかなと思います。こんな弘前に立派な方がいるのだから、それを何も知らないで過ごすのは残念だなと思います。是非今度郷土文学館に足を運べるような活動もして欲しいと思います。

(成田委員)

興味ある人はちゃんと足を運ぶと思います。どこで興味を持つかがとても大事だと思うし、来てみればすごいと思うしこんなにきちんと揃っているのだとか、みんな頑張つて残しているのだとか思います。ただここで知る、知りたい、行ってみたいというところをどこで引き出すかですよね。観光で来る方は調べてくるので来るのですよ。住んでいる人は何かのきっかけがないと調べないし行こうと思わないのですよね。なのでそこは100円の問題なのかどうかわからないのですが、多分図書館も同じだと思います。利用率はわかりませんが興味がある人は黙っていてもここに来て、どんどん調べていくし要望も出していくと思います。でもここに来たいと思う気持ちをどう育むかというのが難しいですよ。多分何十年も考えてきたと思うのですが、そこが入口、課題だとわかっているけれど、その入り口をどう工夫すればそうなるのかと。あらゆる機会にいろんな人が集まる時に宣伝するしかないかな。どういう宣伝をするかによって受け止め方が違ってくるので、今

日案内していただいた時もテープを聞くと情景がわかったりしますよね。パソコン見たらわかるよと言われても皆がパソコンを持っている訳ではないです。誰でもわかる方法でどうやったら『来たい』に繋がれるかというのが大事なのかなと思います。

(古川委員)

先ほど学校でという事がありましたのでお話いたしますけど、前任校でも申しておりましたがレンガ倉庫とか高岡の森とかは企画で何年もバスを出してくださっていい思いをさせていただいています。ぜひ今度郷土文学館も入れて年ごとにサイクルを変えてやっていければなと思っています。ただ、今学校で一番危惧していることはコロナ禍で社会教育との繋がりが切れてしまっていることです。そして今まで培ってきたノウハウが人事異動などがあってかなり切れてきているので、それをもう一度構築しながら、リセットという形で我々も気を引き締めてやっていかなければと考えているところです。

(生島委員長)

一通り皆様方からお声を発していただいたのですが、何か言い残しをした方はいらっしゃいますか。

『奥ゆかしき津軽の古典籍』についてご意見のある方はいらっしゃいませんか。

本当に見たい人が見るのでなかなか誰でも見て楽しいって感じではないと思うので。ただ私が感じるのは「見らさる」という事も必要かなと。目に触れてこういうのがあるとか絵図なんかも実際見てみれば面白いというのもあると思うので。例えば広報の一角に毎月ちょっとずつ絵図を載せるコーナーがあると「見らさって」、そこからちょっと開いてみようかという興味を持ってもらうきっかけ、違う所をきっかけに入ってもらおうというような事があってもいいのかなと思います。小出しにしていくことで見てもらうきっかけにして足を向けてもらうという事があるのではないかという事と、もう少しホームページのアーカイブの所のデザインが見やすくなるといいなというのは感じました。見出しの所にも『～の絵』というだけではなくて、少しエピソードを書いてあると興味を持って「開いてみよう」というようになったり、「ここに注目！」のようにあるといいのかなと思ったりもしたところです。アイデアはきっとあると思います。まずは今日こうやって普段来られない方にもまず見ていただくきっかけであり社会教育委員もそうだから市民ももっと使ったらいいのにという事がまず1つ出てきたかなと思います。だいたいこの事は以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。

## 次第6

### 社会教育関係団体への補助金の交付について事務局から説明

(生涯学習課長)

社会教育関係団体への補助金の交付について説明いたします。資料をご覧ください。社会教育法第10条で社会教育関係団体とは法人であると否とを問わず公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行う事を主たる目的とするものとなっております。

■1については法律の記載について記載したものです。社会教育関係団体の判断基準としては社会教育に関する事業を行う事が主たる目的となっている団体で自主的な運営が行われている団体というふうに判断しています。

次に弘前市の社会教育関係団体認定基準について説明します。

■2をご覧ください。(1)～(7)までの基準を記載しております。(1)が公の支配に属さない団体である事。(2)が全市を対象区域とする団体である事。(3)が社会教育に関する事業を行う事を主な目的とする団体であって、本市の社会教育振興に寄与するものである事。(4)団体の目的、事業、役員等に関する規約を持っている事。(5)経理機構を持っている事。(6)本市に団体の本拠としての事業所を有している事。(7)営利事業及び政治、宗教活動を目的としないものである事。となっております。申請書を提出いただいて認定基準との照会をしたあとで市が社会教育関係団体を認定するにあたっては社会教育委員会議に諮ることとしております。

参考として3枚目に現在弘前市の社会教育関係団体を記載しております。平成10年に15番の『つがるネイチャーゲームの会』を認定して以降社会教育関係団体については申請がないので審査を行っていない現状です。

次に■3をご覧ください。社会教育関係団体に対する補助金交付に関する意見聴取についてです。地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には予め社会教育委員の意見を聞いて行わなければならないとされていますが、なぜ社会教育委員の意見を聞いて行わなければならないかという社会教育関係団体に対して行政が補助金を支出する事で統制的な支配や事業の干渉が加えられる事が無いように社会教育委員が行政をチェックする機能を持っていただくという事で毎年補助金に関して見ていただいているものです。そして委員には補助の目的や補助金の対象事項を見ていただいて補助の目的があくまで団体に対する社会教育活動の支援であって団体を行政が支配したり、事業の内容に干渉したりするものではないという事をチェ

ックしていただくという事が意見聴取の目的となっていたところで  
す。前回社会教育委員会議に出した資料は社会教育関係団体等に対す  
る補助金等一覧としてお出したものですが、こちらについては生涯  
学習課が支出する補助金等についてすべて記載している資料を配布し  
ました。社会教育委員の皆様は趣旨に沿った形でご意見を頂く為には  
社会教育関係団体以外の団体も入っていたため、委員長含め皆様に分  
かりづらい部分があったと思います。説明が不十分でして、また資料に  
ついては不要な情報が掲載されておりましたので今回資料の方を差替  
えという事でもう一度配布し修正させていただきます。本当に申し訳  
ありませんでした。以上説明になります。

(生島委員長)

事の発端は前回の会議で社会教育関係団体への補助について社会教育  
委員から意見を聞くという事になっていましたので、見た所これは社  
会教育関係団体なのかとか、どういう団体があるのだとか、どういう仕  
組みになっているかというような事がわからなかったため、今回この  
ようにしてご説明いただいたものです。前回の資料は社会教育関係団  
体への補助ではないものも含まれて、団体に対する補助ではなく、生涯  
学習課が行う事業に対する補助も含まれていて、我々が意見を言うの  
は団体への補助ですので、団体だけのものを出して頂いたところで  
す。団体になりたいというところがあれば社会教育委員にも必ず図られ  
るという事ですけれども、現状最近では社会教育関係団体としての登  
録団体になりたいという声がないとのことでこの会議でも実際には図  
られておらず、我々もどういう仕組みかわかっていないという事だと思  
います。今回改めて事務局から説明された訳ですが、何かご意見等あ  
りますか。では中田委員お願いいたします。

(中田委員)

まず質問1つ目です。この社会教育関係団体の資料の『つがるネイチャ  
ーゲームの会』とはどういった活動内容なのでしょうか。

(生涯学習課長)

今日は資料を持っていないものですから、のちほどご説明させてい  
たきます。大変申し訳ありませんでした。

(中田委員)

あともう一つですが登録団体になりたいという希望があった場合の申  
請窓口は生涯学習課でよろしいでしょうか。

(生島委員長)

今の質問に重ねてなんですけど、登録団体になれますという告知は市民向けに定期的にされているのでしょうか。

(生涯学習課長)

申請窓口は生涯学習課、周知は現状では行っていません。

(生島委員長)

他に何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

団体があれば弘前市や様々な所で補助金の申請という事の他、社会教育施設の利用を促進するなどもあるとは思いますが、その辺は教育委員会の方で改めて見直しがされているという事ですので、そういう情報を出されたり、こちらの方でも情報が整ったところで意見をお伝えするタイミングもあると思っています。

よろしいでしょうか。何かありますか。

では白藤委員よろしくお願いたします。

(白藤委員)

弘前市の社会教育関係団体一覧に団体が16までありますが、実態がどうなのか、どのような現状なのかよくわかりません、もう一つは令和5年度の社会教育団体に関する補助事業一覧となっていますが3団体しかないのですね。ところが実際には16もの教育関係団体があるにも関わらず補助金の交付される団体は3つしかなくて、過去の実績を見た時に予算措置がされているにもかかわらずゼロとなっているものもあります。せっかく予算を取りながらゼロとはどういう事なのかも含めて現状の状況を聞きたいと思います。

(生涯学習課長)

こちらでお出した令和5年度4月1日現在での社会教育関係団体の一覧は、平成10年に『つがるネイチャーゲームの会』を認定する前に社会教育関係団体として扱うとしているのが平成8年の状態のものです。補助金を交付している団体以外は現時点で活動の実績についてこちらで把握しているものは無い状態です。ご指摘の補助金ですが、補助金は全ての経費について支援するものではありません。当該補助金は大会等に出る時の旅費等について支給する内容になっており、大会旅費の部分についてはコロナの関係があって全国の大会や遠方の大会に派遣するのを控えていたというような経緯があります。そのため実質の決算額がゼロとなっていると確認しております。以上です。

(生島委員長)

他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

昔のままアップデートもされていないし、どういうメリットがあるかだとか、ただの団体ではなく社会教育団体と言っているのだからそこについて改めて私達も考えていくという事も必要なかと思えます。やっぱり平成10年以降何も無いという事も聞けばある訳ですけど、今日はここまでとして、また皆さんも改めてお考えいただきながら随時議論をしていきたいというふうに思っております。ちょっと頭の片隅に止めていただきながら、これからまた議論をしていく事にしたいと思います。

ありがとうございました。

議題7の報告。

弘前市教育創生市民会議に係る、任期満了に伴う次期委員の選出について事務局から説明。

(生涯学習課長)

弘前教育創生市民会議の任期満了に伴う次期委員の選任について社会教育委員の中から代表の方1人を選出することを説明

(生島委員長)

次期委員の選任について、委員長案の発言。

社会教育委員の任期が来年の7月までとなっていて、教育創生市民会議の任期と少しずれているが、まず来年の7月まで佐藤委員に引き続きお願いしたい。

佐藤委員を選出することで承認

次第8

その他。

事務局から今後の会議・研修等の日程等について説明

(生島委員長)

中南社会教育委員の連絡協議会は今年度は4回の研修を予定されています。今年度の事務局は黒石市です。1回目が8月29日。これは県との共催となっています。午前午後の終日の研修になっています。是非ご参加いただけたらと思います。2回目が研修と言いつつ実際は9月1

	<p>日の研究大会になります。研修の一環としてカウントしております。3回目が10月、11月くらいの予定がされていて、年明けに4回目が予定されています。社会教育委員も学びながら社会教育の活動を推進していく一助になればと思いますのでご参加のほどお願いいたします。</p> <p>では本日の案件や報告、その他は以上になります ではこれで会議を閉じさせていただきます。円滑な進行、ご協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は公開</li> <li>・傍聴者なし</li> </ul>